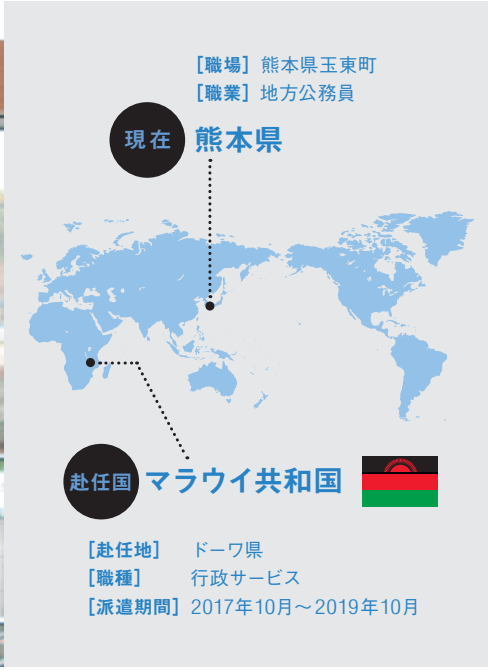

地域を愛し、地域を拓く「町のイベント屋さん」人口5千人の町が「グローカル」で変わる

渡邉 拓人さん　玉東町役場 企画財政課
Takuto Watanabe

「戦隊ヒーローがアンケート調査」「裏山トレイルランに応募者殺到」
海外派遣前の若者によるユニークな企画で活気付く町があります。
今回はその影の立役者とその活躍に迫ります。

小さな町に「世界」がやってきた?

JICA海外協力隊（以下、JOCV）の候補生たちが、海外派遣前に日本の地域で社会貢献活動を行う『グローカルプログラム』。この活動が地域に深く根付いているのが人口およそ五千人の町、熊本県玉東町だ。

その中心にいるのが、自身もJOCV経験者である玉東町職員の渡邉さんだ。「玉東町っていいなと感じてもらいたい」という熱い思いで、町の未来を考える企画業務から、住環境の整備、関係人口づくりまで、幅広い仕事をこなす。玉東町で生まれ育った渡邉さんは、地元の仲間を巻き込み地域のお祭りやイベントにも積極的に関わる。コロナ禍で閉鎖した音楽バーのピアノを駅に設置し、イルミネーションと合わせたコンサートを毎年続けていたり、みかん農家の高齢化問題を解決するため、鉄道会社や運輸会社と連携した日帰りツアーに携わるなど、渡邉さんは常に主体的な姿勢で新しい挑戦を続けている。

だからこそ、この『グローカルプログラム』と玉東町の縁は、渡邉さんが繋いだと言っても過言ではないだろう。このプログラムは、コロナ禍で海外に行けなくなったJOCV候補生のために始まったものだが、渡邉さんは、JOCV経験者として何かしたいという意欲と、その経験を地元の活性化に役立てたいという強い思いから受け入れを提案した。

これまで玉東町では、2020年の受け入れ開始から20名以上のグローカルプログラム実習生が滞在し、地域の人々との交流を深めてきた。住民のなかで「グローカル」という言葉が浸透し、JICAの認知度も高まっているという。「一期生の活動が町に良い印象を与え、その後も続く実習生たちが町の人々に愛される存在となっていった」と渡邉さん

海外派遣中、マラウイの小学校で空手を教える様子

帰国後、地元中学校で異文化理解の授業を実施

夫婦で帰国後もマラウイの収入向上活動を継続。2025年に再びマラウイへ

は語る。

夢を諦めず、地方から海外へ。

渡邉さん自身も、JICAとの出会いが自身のキャリアと人生に大きな影響を与えているという。叔母といとこがJOCV経験者だったこともあり幼い頃からJOCVに憧れてはいたが、地元が好きでいったんは玉東町役場に就職した渡邉さん。しかし三十歳の時に熊本地震を経験。人生を見つめ直すきっかけとなり、夢を諦めたくないと「現職参加制度」を利用してJOCVに参加した。玉東町では渡邉さんの後にも当制度を利用する職員が続いている。その意味でも渡邉さんは町のパイオニアといえよう。

派遣先はマラウイ。行政サービスの改善に取り組む行政・事業マネジメントという職種だった。「トップダウン方式が機能しにくく、住民や職員一人ひとりの意識を変えることに時間を要した。まずは同僚との信頼関係を築き、地道に理解を促していきました」それまで行政職員として経験を積んできた渡邉さんだが、価値観や慣習の違いから活動の難しさに悩んだという。他方で、現地での暮らしは電気も水もない環境だったが、すぐに慣れて貴重な異文化生活を十分楽しむことができた。

特に、小学校から続けていた空手では、空手3段の腕前を活かし、現地で子どもたちに空手を指導した。当初は初心者指導にためらいがあったが、子どもたちの熱意に押され「休まないこと」を条件に指導を開始。最終的には20〜30人を指導し、全国大会に出場できた教え子もいたそうだ。「今も時々写真が送られてくるのでSNSを通してアドバイスをしてます」帰国後も、教え子たちとの交流は続いている。

自分を磨き、地域を拓く。

マラウイでも玉東町でも、行政の立場に在りながら一住民として地域を思い行動するスタイルに渡邉さんの人となりを垣間見ることができる。自身を「町のイベントやさん」というように、地域の行事でもグローカルプログラムでも三十代の青年という等身大の姿がきっと人々を惹きつけるのだろう。

一見したら地域のこと優先で行動している渡邉さんではあるが、「できない理由を探しがちになる行政の思考から抜け出し、新しい刺激を得るために外に出たいと思った」と、根底には自分自身が成長したいという強い思いがある。行政職員として地域の課題解決のためにできることを着実にこなしながら、時には型にはまらない発想でイベントを企画し地域に新しい風を吹き込む ── こうした“できること”と“やりたいこと”を調和させながら生きる姿は、置かれた環境で自分の力を試そうと頑張るグローカルプログラム実習生のお手本になっているのかもしれない。また、渡邉さん自身も、彼らが生み出す新しいアイデアに刺激を受けながら成長し続けているのだ。

渡邉 拓人さん プロフィール

熊本県出身。玉東町役場職員として初の現職参加制度を活用しJICA海外協力隊員としてマラウイへ派遣される。帰国後は同役場へ復帰し、地方創生や多文化共生社会の創出に携わっている。

渡邉さんへのエール！

玉東町長
前田 移津行さん

元JOCVが繋ぐ「小さな町」と「世界」

渡邉君は、玉東町役場初のJICA海外協力隊員です。小規模自治体における職員一人の比重は大きく、派遣にはためらいも感じましたが、帰国後は派遣の経験を活かして県下唯一のウクライナ支援事業に進んで取り組んでくれました。また、後進の育成のために、JICA訓練生の役場への受け入れも積極的に実施し、庁内活性化にも多大な貢献をしてもらっています。今後も小さな町と世界の懸け橋として活躍してくれることを期待しています。